

事例 C-1

(1) タイトル：3Dプリンタ拳銃事件

(2) 本文：

201X年8月、3Dプリンタで拳銃を制作し所持していた神奈川県在住の男性Aが、銃刀法違反で逮捕された。神奈川県警が男性Aの自宅を家宅捜査した際、3Dプリンタを使用して制作した拳銃が5丁押収され、このうち2丁は殺傷能力があるものと鑑定された。その後の調査で、男性Aが使用した銃の設計図は、米国内の団体がインターネット上に公開したものであり、さらに彼自身も、拳銃の製造過程の詳細をネットに投稿していた事も判明した。

裁判において、弁護士は次のような弁論を行った。男性Aは行為が違法であることを知らず、また3Dプリンタでは実弾は作れず、男性A自身も作っていない。さらに、警察側が作成した実弾をつかい発射した所、1丁は一発目で銃身に亀裂が入り、もう一丁は、一発目で銃身が脱落している。これが拳銃といえるのであろうか？

しかし、裁判官は、「自身の技術と知識を誇示し、銃規制の意味のないものにしようと試みた。特に、ネット上に製造過程を投稿する事により、他の人々にも銃を製造することを促しており、事件を起こした責任は重大だ。」と判断して、「銃砲刀剣類所持等取締法違反、武器等製造法違反」とした。男性Aは判決を不服として控訴したが、高等裁判所は一審の判決を支持し控訴は棄却され、判決が確定した。

この事件を受けて、当時の経済産業大臣が、3Dプリンタによる拳銃製造は規制対象であることを明言すると共に、国家公安委員会委員長が、現行法では対応できない問題であり、法制上の問題も含めて対応することを表明した。

元々3Dプリンタは、製造業を中心に建築・医療・教育等の幅広い分野で試作品やモックアップの作成に使われてきたが、2010年代に入り、高精細度で低価格、さらに使用材料の多様化も可能な量販品が売られるようになり、広く一般に出回るようになった。そのため、3Dプリンタの購入は法的に規制は存在せず、転売も可能なことから、利用者を特定する

ことすら不可能である。従来の法規制は、拳銃のような「物」の製造・所持・流通を取りしめるためのものであるが、3Dプリンタを用いた拳銃に関しては、製造者や所持者を特定する事も出来ないのである。

このケースで問題となるのは、3Dプリンタで拳銃（あるいはそれに近い物）を作ったことであり、3Dプリンタそのものの弊害ではない。つまり、許可無く拳銃を製造・所持する事が違法であり、3Dプリンタ銃を製造させないようにすることが求められる。そのためには、3Dプリンタの所有を認可制にする方法が考えられるが、既にプリンタを使った多くの試作物が出て来て、プリンタが身近な機械になりつつある現在において、この方法は現実的ではない。さらに、設計データさえあれば、どの3Dプリンタでも制作できるため、プリンタ所有の認可制度は実際の規制にならないであろう。別案としては、設計データの流通を規制する方が考える。3Dプリンタ用データの共有サイトに対して、銃設計のような危険なデータの存在の有無をチェックして、確認できれば削除するように対応するのである。ただ、その場合は、違法コンテンツの取り締まりのように、海外サイトのような規制できない所にデータをアップした場合に、そのサイトの運営業者に対して、国内ルールにしたがい削除させることは出来ない。つまり、「拳銃を製造させない」ような法規制や利用規制だけでは目的を達成する事は出来ない。そこで、第3の方法として、もし3Dプリンタの利用者自身が、何を作りたのかを発想する時に、「作ってはならない物」があることを知らせる仕組みがあれば、利用者自身が違法性を認識でき、拳銃を製造させない環境を作れるであろう。「作ってはならない物」とは、単に法律で規制されている物だけでなく、技術者としての先見性を基に、社会への責任感・使命感から判断して「想定内」の将来的な課題も含んだものとする必要がある。

従来、銃のような物理的な物の製造・所持・流通工程には、明確に責任者が特定可能であり、責任の所在が明らかであったが、ICTと繋がることにより、責任者が不明確となり規制が困難となる等、新技術の導入が大きなリスクを与えかねない社会になりつつある。しかも、3Dプリンタのように既に社会生活に浸透している場合、その影響を特区内で検証した後には規制を作る事も出来ない。日常の社会の中で、弊害を回避する対策を、技術者のプライドと責任を持って探求する必要がある。

(3) 考えてみよう。

(1) 銃以外で、3D プリンタで製作して悪いものを挙げて下さい。また、製作不可の理由を考えなさい。:

(例) 貨幣、ピッキング用道具、議員バッジ、公印

(2) (1) でリストアップした項目は、すでに法規制されていますか？

あれば、その法律を記して下さい。また、もし無ければ、どんな規制があれば良いか、考えてください。